

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	390100170		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ2階		
所在地	盛岡市稲荷町2-5		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果市町村受理日	平成26年4月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&ji_gvosvoCd=0390100170-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成26年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が安全、安心し健康で暮らせる事を第一にしております。転倒骨折事故のリスクを軽減する為、クッション床を導入、木のぬくもりで温かみのある施設。清掃区域を区域別に清掃用具を分かりやすく色分けしEPA登録の洗剤を使用するなど清潔で安全な空間を目指し職員教育にも徹底している。トイレ、浴室、居室、廊下手摺りには防カビ、殺菌、消臭効果を目的とした光触媒を施行。台所においては包丁、まな板殺菌庫を設備、包丁、まな板は用途別に色分けし使用後は次亜塩素で消毒殺菌を施行し保管を徹底、指導しており提供するサービスが入居者やご家族にも安心され満足頂ける施設を常に目指しております。 毎朝10時にテレビ体操の実施、食事前のイソジンでのうがい、手洗い、嚥下体操を実践しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・事業所は、共有空間、居室等、清潔で安全な環境整備に努力している。
- ・身体の清潔保持や感染予防に工夫をし、ケアサービス向上に取り組んでいる。
- ・事業所は1階、2階の2ユニットで、献立は同じであるが、それぞれの階の台所で、利用者と職員が一緒に調理し、同じテーブルで同じ食事を食べ、楽しく明るく家庭的な雰囲気を感じられる。
- ・排泄については、トイレでの排泄や自立に向けての支援をしている。また、各トイレには、清拭用のタオルの保温器が設置されており、排泄の都度清拭し清潔を保持している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や園内で基本理念の確認をする場を設けるようにしている。常時掲示板に貼り周知徹底を図っている。基本理念を基に職員間で話し合い各ユニット毎に目標を設定し掲示。	基本理念は、掲示板に貼り周知を図っている。理念を基に「笑顔で」「待つと言わない」等の目標を決め、ホールの壁やトイレに貼っている。全体会議で反省し、達成しない場合は継続し、取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており会長、総務部長、班長、民生委員の方々に運営推進委員になっていただいている。近隣の方々には古新聞を届けていただいたり旬の物を持ってきていただいたり趣味の盆栽を何日か置いてくださり入居者と鑑賞しております。	町内会に加入し、会長、総務部長、班長、民生委員が運営推進委員になっている。近隣の方々から、古新聞(オムツを包んで捨てる)や蕨・竹の子の旬の物をいただいたり、趣味の盆栽を置いて水やりで毎日来訪する方もいて、利用者や触れ合う等、地域の方々と日常的に交流している。「こども110番の家」の指定を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員の方々に近隣の方々には避難訓練の援助を要請し連携が円滑に行なえるようご協力頂き、高齢者、認知症の人への支援や理解を頂ける様、努力しております。折々の行事にもご参加いただいております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昼食にお招きし率直な意見を頂いたり外食の際はどのようなメニューがいいのか、行事の意見や提案を頂いております。避難訓練では終了後の消防職員の話にも出席いただき質問されたり積極的に意見を頂いております。	推進会議に昼食を提供し、利用者と一緒に食べていただき、量や質に好評を頂いた。避難訓練後の消防職員の話に、質問や意見を頂いている。委員には、災害時の協力を了解いただき、緊急連絡網を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の議事録を報告、認定調査等の相談、情報等はメールで送信されており協力関係は築けている。	市の担当窓口には、本部の職員が出向くことが多いが、運営推進会議の議事録を報告、認定調査等の相談、情報等はメールで送信されており、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員一同実践しております。「グループホームの倫理綱領」「利用者の権利」を掲示板に提示し職員の意識、周知徹底を図っております。玄関の施錠に関しては外部からの危険防止、ご家族からのアンケート調査実施済み。	身体拘束をしないケアについて「グループホームの倫理綱領」「利用者の権利」を掲示板に提示し、職員の意識、周知徹底を図っている。玄関の施錠に関しては、本社としては事故を回避するため、家族へのアンケート調査で、約8割の家族から、やむを得ないと回答を得ている。	精神的にも身体的にも拘束しないケアについて、職員の話し合いを続けて頂きたい。施錠しないケアについて、全職員での取り組みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように管理者は職員と話し合う時間を設け利用者が安全に過ごせるように注意を払っております。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ(2階)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修後、内部研修を実施、その時点では制度の必要性のある入居者がいないこともあり今後は介護に携わる者として制度の理解を深めていこうと考えております。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、ご家族からの聞き取りを行い重要事項説明書で施設利用について説明を行なっている。ご家族様には理解、納得されていると思う。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際は出来るだけ管理者か職員が意見、要望をお聞きするようにしている。意見が出た場合は臨機応変に体操し職員間で周知徹底出来るよう連絡ノートに記載し対応に努めている。	家族から、(利用者あてに)面会に来られた方を教えて欲しいという意見や、利用者に頭の体操のような本を買ってきて読むことを進めてほしい等の意見・要望に対応している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議及び全体会議等への出席、緊急会議の招集の指示を出し問題を先延ばしせず解決するように努力している。共有フォルダーでタイムリーな情報を共有できるようにしている。	ケース会議(2ヶ月に1回)、全体会議(年1回)等への出席を促し、意見を出しやすいように配慮している。最近の意見は、ケアの質の内容が多くなっている。本部や同系列の事業所とは、PCでの共有フォルダーで、情報を共有している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は業務に専念出来るよう請求、小口処理業務は本社で行なっている。職員の疲労が蓄積しないようなシフト、有給が使えるよう配慮、希望休みがある場合は可能な限り対応している。外部研修受講は勤務として扱っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事として内外の研修に参加するように働きかけており、また資格取得等については休日や有給等の配慮を行なっている。介護福祉士等の資格取得した場合は手当を支給する、。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国GH協会や地域のグループホーム協会に加入し協会主催の会議に参加、タイムリーな情報収集に努め参加、同業者との交流を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安や不満がある時は職員は時間をとり居室や屋外で傾聴し少しでも軽減出来るよう努めております。職員間で話し合い勧めております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にお話を伺いながらご家族がどのように困ってられるか面会の時など時間を頂き傾聴し信頼関係が構築出来るよう努めております。入居後の日常の様子等も報告させて頂いたり何か変化が見られる場合はお話し合いをさせていただいております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及び家族のそれぞれの要望、本人の能力や身体状況、医療との関わりを見極め臨機応変に対処しております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一人一人が生き生きと笑顔で生活していただいているか変化が無いか常に目を配り入居者、職員が互いを支えあっているという意識を持って生活している。他入居者との良好な関係が築けるよう考えております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の情報を都度、ご家族へ報告し共有するように勧め本人の意向をお聞きし共に支えられるよう働きかけております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が馴染みの方々との関係が絶たれないよう訪問しやすい環境を心がけ働きかけている。町内の入居者は地域の行事に参加したり職員と一緒に伺ったり地域の方々にご協力いただいております。		事業所と同じ町内の方が1名いて、友人が訪ねて来ている。面会者にお茶を出したり、本人が馴染みの方々との関係が絶たれないよう、来て頂きやすい環境を心がけている。また、(現在は誰も住んでいない)自宅を見に行ったり、神社のお祭りに職員と一緒に見に行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活や本人の性格、言動、行動を観察し職員間で話し合い利用者同士の関係を把握しトラブルが無いよう支援している。また、どうしても関係が築けない利用者は職員が間に入り孤立しないよう何度もケース会議で周知、援助している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中に退去された場合でもオムツ等を届けたり様子を伺ったりしております。ご家族の要望や高い後施設の情報を提供、問い合わせ等、出来る限りの協力をさせていただいております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に傾聴の姿勢を持ちお一人お一人への対応を行っております。またその事をケース会議で検討し個別の援助計画に活かす事と職員間で共有出来るよう申し送りノートを活用しております。	入浴の介助や起床時の介助時は、一人ひとりとゆっくり話ができ、思いや意向の把握に努めている。気付いたことは、ケース会議で検討し個別の援助計画に活かしている。また、申し送りノートに記載し職員間で情報を共有している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族から出来るだけ多く情報を提供してもらおうが独居の方等は情報が少ない事が多い。入居後、本人との話の中で得られたり家族等から新しい情報を得られる事がある。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活状況の中で表情や言動等から変化が無いが職員間で本人が出来ることや出来ない事を把握し周知している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや利用者の変化に応じて都度対応、ご家族からの情報を基にケース会議を行い現状に合った個別援助計画を作成するように努めております。	職員は、利用者の担当を決め、対応をしている。介護計画は、ケース会議を開き、担当者のまとめや他の職員の気づき、生活日誌の記録、家族の要望等を参考に話し合い、ケアマネジャーが作成している。	利用者・家族も参加のケース会議を開催していただきたい。担当者が、援助計画の素案等を作成することなどにより、個別的なケアの質が向上することを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録されている日中や夜間の様子を職員は毎日目を通し特別な変化や気付きは申し送りノートを活用、情報伝達に漏れが無いよう努めております。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の受診対応や或いは入退院の対応等、柔軟に対応出来るよう人員を配置、家族からの突然の要望にも柔軟に対応出来る様、職員は心掛けている。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ(2階)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入、地域のお祭りには入居者を連れ見学しております。回覧板を回して頂けるよう班長さんにお話し現在は回して頂き情報を			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の意向を十分に尊重し対応して頂いている。少しの変化を見逃す事なく直ぐに電話で相談、指示を受け対応している。夜間、休日等も往診して頂き入院が必要な場合は手配、ご家族への説明も行なって頂いている。	かかりつけ医の通院は、原則家族の対応であるが、都合がつかない場合、職員が付き添っている。医師には、夜間、休日等の往診、入院が必要な場合の病院の手配、家族への説明を行って頂く等、円滑な関係が構築されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は不在であるが急変時は協力医に報告し相談、適切な医療が受けられるよう支援している。また、緊急性がある場合は救急車を要請し前もって家族から前もって聞いている病院へ搬送を心掛けている。その後の経過は協力医へ報告しております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ご家族の負担を軽減出来るようオムツや洗濯物、必要品の対応を実施している。また、入院前の情報も医療機関へ正確に報告している。医療機関からの経過報告はご家族と共に同席している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方針は重要事項説明の際にご家族へ報告しております。内容に関して職員と共有、運営推進委員の方々へ会議の際、取り組み内容をお話しております。数名のご家族様と今後について相談させて頂いております。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を定め、重要事項説明の際家族へ示しており、数名の利用者について、家族と相談している。また、医師には、事業所で対応できる状態の判断をして頂いている。職員間でも話し合い、指針について共有できている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者、職員は常に緊急連絡網の整備、消防車、救急車の要請時の通報訓練、避難訓練を実施し実践力を身に付けている。また応急手当を職員は外部研修に参加。個別の対応マニュアルも常に職員の目が行く場所に提示、確認している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員の方々の緊急連絡網も了解を得て作成しており災害時は協力を要請出来るようになっていた。非常通報ボタンを押せばセキュリティ会社に繋がりがそこから本社担当者に連絡が入るシステムになっている。推進会議の際、当園にAEDが置いてあるお知らせをしております。	非常通報ボタンを押し、セキュリティ会社に繋がりが、そこから本社担当者に連絡が入るシステムになっている。運営推進委員の緊急連絡網を整備した。今年度、消防署立会の防災訓練を1回実施した。また、職員の緊急通報訓練を実施し、管理者までの連絡方法の不備を経験した。	職員間の緊急通報について、精度の高い方法を検討されたい。少数の職員での(ミニ)訓練等をおこなうことなどを工夫し、夜間帯の避難訓練の実施を期待したい。	

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を常に尊重し自尊心を傷つけないよう声掛けを心掛けております。	トイレ誘導時には、周りに聞こえない様に声掛けしている。また、着衣が、うまくいっていないような時には、さり気なく自室に誘導し、着替えを支援する等、利用者一人ひとりの人格を常に尊重し、自尊心を傷つけないよう配慮している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者自身が想いを伝えられるような環境(居室、入浴時)を作り選択の幅をもたせるような声掛けをしている。自己決定が困難な入居者へは職員を変えたり時間を置きながら対応している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて個別支援に心掛けている。余裕が無い場合は都合を優先している事もある。食事時間や入浴時間はなるべく柔軟に対応するように心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者、家族の希望に沿い美容室へ外出されたり近隣(推進委員)の理髪店に来て頂き会話を楽しんで頂きながら支援していただいております。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を楽しんで頂けるようになるべく旬の食材を取り入れている。また、ひつまみ作りやゴマすり等は利用者が率先してお手伝いされる。食後の片付けも他利用者と会話を楽しまれながら行なって頂いています。	献立は、既存のパソコンソフトを活用し、作成している。職員が調理しており、利用者は一人ひとりの「できること」を手伝っている。ひつまみ作りやゴマすり等は、利用者が率先して参加している。職員も同じ食卓で、会話しながら、介助しながら同じ物を食している。利用者が、職員と一緒に楽しんでいることが伝わってくる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の状況を把握し食事量や硬さ、どのような物(飲み物)が好みなのか時間帯等、食いい全体で把握し提供している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内清潔保持の為、食後の口腔ケアを徹底実施、口腔内の検診も医療機関にお願いし実施、治療やアドバイスを頂いている。また、風邪予防の為、食前うがいも徹底、困難な方へは職員がスポンジで対応。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ(2階)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	プライバシーを尊重しお一人お一人に合った声掛けを行なっている。排泄のパターンをチェック表で確認、また主治医との連携の基、水分補給、携体操、薬等でしえんしております。	排泄のパターンをチェック表で確認し、プライバシーに配慮した声掛けをし、トイレでの排泄を支援している。便秘については、チェック表で把握し、水分補給、軽体操、薬等で予防、対応している。トイレにはタオルの保温器を設置しており、排便後、清拭し、清潔を保っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のテレビ体操、乳製品、芋類等の摂取で日々工夫されているが改善が見られない場合は協力医、主治医、専門医に相談し薬や治療を行なっている。排便チェックの活用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に考慮し本人の意思を尊重し入浴の声掛けを行い対応。入浴に抵抗のある方は職員を変えたり声掛けを工夫し誘導、最低限の清潔保持を確保している。入浴時間は午後から1日3名位で臨機応変に対応しております。	入浴は3日に1回は入浴をしている。また、状況に応じ、シャワー浴等の随時対応をしている。入浴日以外の日には、清拭(陰部)、足浴を実施している。着替えは、自分で準備する方もいるが、入浴準備等難しい方は、一緒に準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく無理強いをせず可能な限り本人の自由に生活していただいている。食後は居室で休まれる方が多く眠られたりテレビを見たりされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個人日誌に綴り職員がいつでも確認出来るようにしている。個人日誌に服薬情報も記載されており変更の際は日誌の記録以外に申し送りノートへ記入し副作用等を注意している。服薬援助の際は袋に記載されている名前を呼びその後、本人確認し服薬援助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の希望に添えるよう外出の機会等、個々に支援する機会を増やして行きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の能力や希望に応じた対応を心掛けています。季節や行事に合わせた外出や春先や初夏は数人で散歩し近隣の方々とお話したりお庭を見せて頂いたり、外の長椅子で日向ぼっこしたり歌ったりと時間が許す限り支援させて頂いております。	お花見、チャグチャグ馬っ子等、季節や行事に併せて、ドライブしている。ドライブに合せての、食事会(回転寿司等)を喜んでいる。近所の散歩では、近隣の方と話したり、庭の花を見せて頂いたりしている。玄関前には長椅子が置かれ、日向ぼっこしたり、歌ったりしている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームたんぽぽ(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの入居者が金銭を所持されておりません。数名の入居者がご家族と話し合い所持されております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族了解のもと、電話の要望があれば柔軟に対応しております。手紙等、職員に投函を依頼される方もいる。年賀ハガキは氏名を書いて貰っております。1名の方は携帯電話を持たれご家族とやりとりされております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は木のぬくもりで明るく日中は日差しが入り暖房が無くても温かい。畳みの敷かれたスペースもあり新聞を見たり洗濯物を畳んだり足を伸ばしたりされております。掲示スペースは行事や普段の写真を貼ったりクラフトを掲示したり子供っぽくならない様、飾り付けております。	居間兼食堂の共有のホールは、観葉植物が置かれ、日差しが入り明るい。壁際には畳の小上がりがあり、新聞を見たり、洗濯物を畳んだり、足を伸ばしたり寛ぐスペースとなっている。壁の掲示スペースには、節分の絵や、吊るし雛が飾られ、季節感を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は一人になりたい時は居室へ戻り馴染みの入居者を居室へ招き談笑されている。また畳みのスペースや玄関のベンチに行き外の景色を見たり花を見たり自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく普段使われている物を持ってきていただくようお話させて頂いております。ソファ、筆筒、ご家族の写真、テレビ等、もって来られております。入居後に入居者と心地いい椅子を職員と購入し常にそこへ座られております。	各部屋のドアに、利用者の名前と写真が標示してある。ベッド(木製)は備え付けであり、電動ベッドも2台用意している。寝具、ソファ、筆筒、テレビ、椅子等、使い慣れたものを持ち込みされている。入居後、利用者と職員と一緒に椅子を買いに行ったり、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、居室、廊下はクッション剤を使用したり居室ドアにお名前を貼らせて頂いたりトイレ、浴室、洗面所に張り紙でお知らせする事で自立した生活が行なえるよう工夫している。		